

ぎかい



2021.7.16

小国町議会だより 第**149**号

小国町へ嫁いできました。



表紙関連記事は16ページ

スマホ
からも
ご覧いただけます！

主な内容

- 2～5ページ 政策提言への回答
- 6～7ページ 6月定例会
- 8～12ページ 一般質問5名登壇

6月定例会

小国町議会

ホームページ <http://www.town.oguni.yamagata.jp/gikai/index.html>
e-mail gikai@town.oguni.yamagata.jp

小国町議会

検索

議会提言

特集

町はどう受け止める!!



小国町議会は、令和2年9月30日に行政に対し政策提言を行いました。

3月末に行政から政策提言に対する今後の対応があらかになりましたので、町民の皆様にお知らせいたします。小国町議会は、政策の実現に向けて、しっかりと行政の対応を監視して参ります。

町の対応 魅力度を高める取り組みとして文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」を実施し、高校と地域が連携したカリキュラムである「白い森未来探究学」を深化させていく。また、大学との連携による研究活動や全

議会から 小国高校の魅力づくりを助長し、将来にわたって小国高校から町づくりを牽引する人財の輩出に向け支援策の拡充を図ること。

項目1
育 成 未来を創る子どもたちの

提 言 1
白い森の国を担う「人」づくり



小国高等学校 高校魅力化プロジェクト HP より

国小規模校サミットの開催の取り組みを支援していく。令和4年度から内閣府の「高校生の地域留学推進のための高校魅力化支援事業」により全国から入学生を募集する。生徒募集に向けた情報発信等の側面支援策を進めるとともに高校魅力化コーディネーターを配置し、地域を担う人財づくりを推進していく。

項目2 移住・定住に関する取り組み

議会から 小国らしい地域資源を活かしたライフスタイル・地域の受入体制の基盤を構築し、本町に関心を寄せる町外者の移住定住に結びつく活動・支援に取り組むこと。

町の対応 小国らしい暮らし方、働き方について、これまでの調査を踏まえ8つのマルチワークモデルと受け入れ組織の構築等を検討してきた。本年度は地域おこし協力隊が受け入れ組織として「特定地域づくり事業協同組合」の設立を目指しているのをこれを支援する。今後は人材育成及び短期・中期的なマルチワークの体験ツアーを実施しながら移住定住の促進を図っていく。また、各種協力隊等の外部人材を積極的に受け

入れ、首都圏での移住イベントの開催、ホームページ、SNSなどを用いた本町や町内企業の情報発信に取り組み、移住・定住を促す施策を総合的に展開していく。

項目3 保育行政に関する取り組み

議会から 保護者・民間保育園・関係機関などとの意見交換、検討組織での十分な議論を重ね、少子化の進行に即した公立保育園と民間保育園の在り方を早急に検討し、保育環境の向上を図ること。

町の対応 おぐに保育園については、令和5年3月末で閉園し、それまでの間は、募集停止を行わず運営することとし、閉園時に在園している園児については、民間保育園に転園してもらう事で保護者の理解を得た。

項目4 閉校校舎の有効活用

議会から 町は、地域住民や施設利用を希望する民間団体等との意見交換を図りながら、耐震基準を満たしている閉校校舎の活用方針を早急に定めること。

町の対応 閉校校舎については、引き続き地域住民で構成される管理組合に管理



有効活用が待たれる旧校舎

を委託し効果的な活用を図っていく。

提言2 白い森の魅力を磨く「環境」づくり

項目1 小国猟友会への支援

議会から 小国町鳥獣被害対策実施隊の母体となる小国町猟友会の安定的な活動を維持するために若手会員の加入促進、野生有害鳥獣の駆除、追い払いなど被害防止に係る狩猟技術等の向上に対する支援を講じること。

町の対応 小国町猟友会員の技能向上に資する運営費について助成し、会員の確

保による鳥獣被害防止対策を図っていく。また、小国町特定鳥獣被害防止対策協議会に対して補助し、同協議会が行う技能講習会等の開催経費についても支援していく。

なお、捕獲、追い払い活動への支援策として、実施隊活動報酬を支給するほか、狩猟の担い手策として、猟銃免許及びわな免許の新規取得時費用、免許維持費用についても助成していく。



町長より鳥獣被害対策実施隊への辞令交付

モデル地区での有害駆除の検証



「道の駅」集客増を目指し、花の植栽を進める

項目2 有害鳥獣防止対策

議会から 有害鳥獣被害防

止策で生産者から評価の高い電気柵設置事業において補助率の拡大・補助率の高上げを行い、生産者が安心して農作物を栽培できる環境づくりに取り組むこと。

町の対応 鳥獣被害対策実

施隊による二ホンザルやイノシシの捕獲を行うとともに、電気柵の設置費や狩猟免許取得費を助成し、農作物被害の軽減と田畑を保全していく対策を支援していく。また、モデル地区を選定し、講習会の開催や有害鳥獣の進入路となる里山を刈り払う緩衝帯の整備並びに侵入防止柵の設置など、地域ぐるみで鳥獣被害対策を実施し効果を検証する。

提言3

白い森を舞台とする
生き活きとした
「暮らし」づくり

項目1 道の駅「白い森おぐに」賑わいづくり

議会から 町と指定管理者

の連携のもと施設全体の機能を発揮し、多彩なイベントやPR活動など道の駅の賑わいづくりによる誘客の拡大を図ること。

町の対応 公園緑地化を継

続し、令和3年度は、斜面に本町のロゴマークをあしらった花の植栽地を整備する。来訪者、町民の方々が足を運びたいなる施設を目

項目2 民有林における森林資源の有効活用

議会から 森林整備等促進

基金を有効に活用し、民有林での高度な技術を活用した境界明確化事業を展開し、収益性が期待される林地での伐採・施業を推進し森林所有者の所得向上、森林環境の整備を図ること。

町の対応 森林環境譲与税

は令和2年度、1916万円交付されたが、これを原資とする森林整備等促進基金に積み増し、森林や林道の巡視、軽微な林道設備の維持管理、町有林の境界調査業務に活用する。また、地域森林計画の対象となる民有林について、森林施業の標準的な方法及び森林の保護の規範、路網整備の考

項目3 地域運営に関する取り組み

議会から 持続可能な地域

の実現に向けて地域共通の運営組織の設立・活性化に対する行政支援を行い、住民の連携と協働によるまちづくりに取り組むこと。

町の対応 圏域または職域

において、町民自らが考え、自ら実践する地域づくりに



森林資源の有効活用

え方を定める長期的な視点に立った森林づくりのマスタープランである森林整備計画を策定する。

議会から

コロナ禍の収束

項目1

感染防止対策

提言4

新型コロナ ウイルス感染症 防止策と経済対策

対して支援するほか、地域が自主的なコミュニティ活動を実施するため、財団法人自治総合センターの助成制度の活用を図る際の支援を行う。また、次代を担う若者や町と関わりのある外部人材とともに、まちづくりを実践していくための人材養成講座の開催、人材育成事業を実施する。

町の対応 新型コロナウイルスのワクチン接種については、接種体制が整い次第適切な情報提供をおこないながら計画的かつ円滑に実施していく。



接種の推進となるワクチン号

が不透明な中で、コロナの感染状況に応じた感染防止策を講じること。あわせて、地震・水害などの大規模災害が発生した場合に備え、避難所開設に際しては感染症対策の徹底を図ること。

項目2

情報発信

議会から 町のホームページやSNS等の電子媒体に偏ることなく、防災無線・チラシなど様々な媒体を組み合わせた情報伝達の手段を講じること。

町の対応

町長を本部長とする小国町新型コロナウイルス感染症対策本部で、各課間の情報共有、必要な対策の検討を行う。決定された内容については、広報・ホームページ・SNS・チラシ等を活用し、速やかに町民に周知する。

項目3

経済対策

議会から 町は、国に対し地域創生交付金などの継続や増額を要望し、本町における経済再興に向けた支援

事業を継続すること。

町の対応

商業対策として町内消費の拡大に向けプレミアム付き買い物券発行事業を支援する。また、アスモ内の空き店舗の活用や賑わいづくりの取り組みを支援する。

中小企業対策として県商業振興資金や小国町商工業経営安定資金緊急融資制度を活用した際、利子補給と保証料の補給を継続して



コロナ後を見据えた努力が続く

項目4

教育対策

いく。なお、新型コロナウイルス感染症対策は、長期化が予想されることから、国に対して地域創生交付金の継続や増額を要望し、同交付金を活用した効果的な経済対策を実施していく。

議会から

学校と教育委員会が連携し「オンライン授業」などICT化を推進し、児童生徒がコロナ禍におけるデジタル教育に適應できる学習環境の整備を図ること。

町の対応

令和2年度は児童・生徒ひとり一台ずつタブレット端末を整備した。新学習指導要領で定める「主体的・対話的で深い学び」の実現と「情報活用能力の育成」、「プログラミング教育」の充実を図っていく。

1億8955万4千円を可決 億2848万2千円に増額＝

主な条例改正等

- 小国町一般職の職員の特殊勤務手当支給条例の一部を改正
要旨：新型コロナウイルス対応の職員について手当を支給する
- 小国町営バス設置及び管理に関する条例の一部を改正
要旨：利用しやすい運賃に改正

財産の取得

- ◆ロータリ除雪車 1 台
昭和建機株式会社 4508 万円

契約の締結

- ◆令和3年度
町民総合体育館外装改修工事
山和建設株式会社 1 億 6940 万円

定例会の あらまし

6月定例会は、6月7日から11日の5日間の会期で開催され、各会計補正予算、条例の制定、財産の取得、契約の締結、人事案件などを原案どおり可決した。

一般質問では5名の議員が町政全般について、町当局の考えを質した。

人事

小国町固定資産評価
委員会委員

任期 令和6年6月23日まで

●志田 藤夫氏（再任）

小国町大字伊佐領

●渡部 孝弘氏（再任）

小国町大字小国小坂町

●伊藤 玲子氏（再任）

小国町大字あけぼの

企業会計補正予算の主な内容

病院事業会計

新型コロナウイルスワクチン接種報償費
……………1338万円

老人保健施設事業会計

新型コロナウイルス対策衛生用品等
……………56万円

**6月
定例会**

一般会計補正予算

= 一般会計予算総額は64

一般会計補正予算の主な内容

総務費	町顧問弁護士報酬金 ※あけぼの地内の行政財産に関する住民訴訟裁判(却下)に関わる費用	125万円
	町顧問弁護士委託料 ※あけぼの地内の行政財産に関する住民控訴裁判に関わる費用	125万円
	財政調整基金積立金	1億円
民生費	民間保育園新型コロナウイルス対策補助金	75万円
	おぐに保育園・児童室感染防止設備等導入	208万円
	子育て世帯生活支援特別給付金 ※非課税子育て世帯 子ども一人5万円支給	550万円
農業費	牛ふん堆肥舎・散布機械導入	1454万円
	新股地区揚水機・水路整備工事	500万円
	観光わらび園運営支援交付金	199万円
商工費	雇用調整助成金申請代行補助事業	24万円
	旅行商品開発事業 ※観光DMO参画に伴う商品開発	500万円
土木費	町営住宅使用料還付加算金	663万円
消防費	消防団レインスーツ等購入	26万円
教育費	叶水小中学校エアコン設置工事	320万円
	小国中学校Wi-Fi設置工事	390万円
	成人式PCR検査費用助成	120万円

**臨時
議会**

第4回臨時議会が4月28日に開催され、補正予算、条例の設定及び制定に関して4議案が上程。原案どおり可決された。

一般会計補正予算の主な内容

総務費	地方創生テレワーク推進事業 ……4500万円
商工費	新型コロナウイルス感染防止対策協力金 がんばるお店応援クーポン券 ……2685万円 特産品詰め合わせ商品宅配事業 ……350万円

●「ゆ〜ゆ」を含む遊休施設の 今後をどう考える ●ライトトラップによる昆虫採取 の実態把握を

間宮 尚江 議員



●遊休施設解体のめどは

間宮 次期総合センタ―整備における環境整備では、左岸に位置するかつての公共施設の「ゆ〜ゆ」が非常に危険な状況で残っている。教育ゾーン隣接における景観、危険性、解体費用捻出は、いかがお考えか。

利活用の方角性を

町長 現存する「ゆ〜ゆ」、及びレストランの建物は用途廃止後も利活用の可能性を検討してきた。処分するにも、計画的財源が必要である。現在は一時的倉庫として利用している。周辺は千年に一度の浸水想定区域であるが、諸条件が整っていることから、利用に関わる相談も受けている。

青写真を示すべき

間宮 遊休施設、更には旧小国小学校等、解体費用が多額になる。経営資源、資源の分配、適正管理をどう考えているか。

公共施設管理計画に基づき考える

町長 整理する方向性で考えているが、処理や整理するにも時間がかかる。様々な利活用していただけるなら、協力したい。

●自然環境、生物多様性の保護・保全を

間宮 本町は稀に見る自然環境に恵まれており、適正な保存に注視されるものと認識するが、ライトトラップによる昆虫採取は生態系の破壊、希少個体の絶滅を招く。将来にわた

り、こども達や町民が自然の恵みを享受することが保障され、文化活動が確保されなければならぬ。町長の見解は。

実態把握に努める

町長 本町におけるう

イトトラップによる昆虫採取の実態把握に努める。昆虫採取に関して、規制による保護もある。先例を調査しながら検討する。生態系の破壊、希少個体の絶滅を招くような事態には至らないよう努めていく。



文教ゾーンに隣接する遊休施設



持続可能なまちづくりにむけ、 他市町村との友好関係について 災害協定や協力体制は

わた なべ しげ のぶ
渡 邊 重 信 議員

小国町単体で持続可能なまちづくりができるのか

渡邊 人口減少が進み、労働力・購買者も大幅に減少している。これにより町は税収の確保も困難になり持続不可能な町に落ちいらな

か非常に危機感を持っている。小国町と友好関係をもち、お互いに協力できる他市町村との連携について、どう考えているかお聞きたい。

姉妹都市の協定はない

町長 協定はしていないが熊本県小国町と交流しており、特に災害時にはお互いに支援を行っている。

現在、他市町村との連携として、置賜地区との事務処理を共同で行っている。一対一で連携する場合はその目的を明確にし、それ

を相手方と共有して進めることが重要であり双方の町づくりにとって効果的になる。

大規模災害時の協力体制は

渡邊 大規模災害時のシミュレーションはできているか。

町長 福島県大玉村との協定を結んでいる。

町民税務課長 近隣市町村との災害時支援連絡体制は、災害の規模により要請できる体制づくりはできている。

SDGsを通しての交流を

渡邊 SDGs・カーボンオフセットでの友好関係が構築できるのではないか。

町長 SDGsの言葉

だけが先行することなく、お互いの目的は明確にならないと難しいと考える。町民の理解を確認していく。

渡邊 町長の旗振りで色々な交流をもって、わくわくできるまちづくりを進めてほしい。

町長 様々な施策を行うっていく中で、町民の期待に応えられるように進めていく。

アンテナショップの取り組みが友好関係、町の発展につながってほしい。



▲新潟市



仙台市▶

地域医療を守る行動を

- * 小国高校に学べ
- * 地域から医師を育てる

こ せき かず よし
小 関 和 好 議員



日本の医療改革の機会を逃すな

小関 新型コロナウイルスの出現とワクチン接種により、日本の医療は変革を求められている。地域から公立病院が消えていく中、公立病院の存在意義を再認識した。国が医療改革に取り組み、地域医療の必要性と経営の現状を国に訴え、支援を求めるべきと考える。

一層力を入れ取り組む

町長 感染症は、これから発生が予想される。今後の医療計画では、公立病院の果たすべき役割に変革が求められる。公立病院を取り巻く環境は、大変厳しいが、小国町という地理的条件の中で町民の命と健康を守る一次医療の担い手として、持続可能な病院の在り

方について検討を重ねる。これまでも、医師確保や財政支援について、多様な機会を捉え国・県に支援を訴えてきた。今後も一層力を入れて取り組んでいく。

小国高校に学べ

小関 町単体の要望では、効き目が薄い。小国高校の「小規模校サミット」のように国内の同じ境遇の公立病院で「地域医療サミット」を開催し、手を組んで要望すれば国の対応も違ってくるのでは。

念頭におき情報交換を行っていく

町長 どの公立病院も経営には苦慮している。「地域医療サミット」も念頭におきながら情報交換を行っていく。

地域で医師を育てるべき

小関 病院の維持には医師が必要だが、外部に頼るばかりでなく地域でも育てていくべきではないか。奨学金の見直し等、町長の考えは。

随時見直しを検討する

町長 本町では、小国町修学資金貸与条例を

定め、町内居住の子弟で、医師、保健師、助産師、看護師または獣医師の養成施設に在学している方に、月額5万円を上限に貸与してきた。返還免除の規定もあり、医療従事者の確保・定着に努めてきた。今後もより現状に即した制度になるよう検討していく。



地域医療の要



若年女性の地元離れを抑制するには

柴田 伸也 議員

町の魅力を伝えるには

柴田 人口減少が進む中、2019年の山形県外へ転出する女性全体に占める15～29歳女性の割合が、全国で最も高いことが総務省の人口推計で明らかになった。小国町も10年前の15～29歳女性の人口を比較すると、約半分にまで減少している。

町内には若い人材を必要としている企業が多くある。

小国町の取り組みを知ってもらい、女性の地元回帰、定着にどう結び付けていくのか。中学生や町内外の高校生に町の魅力ある職場や働く人達の思いを伝える必要がある。若い女性たちが進学や、就職で県外に出て、将来は小国町へ戻りたいと思える町づくりが必要ではないか。

若年女性の定着に努める

町長 山形県内の若年女性の県外転出が大きい状況にあり、また女性労働者の給与額が全国最下位の水準になっている。本町でも若年女性の地元離れが進んでいることから、女性はもちろんのこと、若者が地元に住住して、なれることを最優先に様々な取り組みを行っている。

結果、この4年間で町内民間事業所に就職した新卒者は110人で、うち女性は25人である。若者の定着を支援する取り組みとして、新社会人に3万円分の商品券や小国町に戻って起業したいという方の支援、さらに昨年度からは、特に若年女性の地元回帰、定着を進めていくため、女性が起業した場合には30万円を支援している。

生徒たちに興味を持たせるには

柴田 中学校の職業講話等で若い方々の話を聞いてはどうか。

教育長 年代の近い先輩達の体験談を話してもらうことは非常に効果があると思うので、これから増やしていきたい。



仕事の様子を楽しく伝える職業講話

次期総合センター建設 用地の確定と基本設計

こばやし よしみ
小林 嘉 議員



建設地は確定したのか

小林 次期総合センター建設計画は、総合的に勘案した土地利用計画を検討することだが、候補地は確定したのか。

現センター周辺に

二つの候補地選定

町長 現センターの文教地区内を前提に、二つの候補地を最適な候補地として選定した。

基本設計の見直しは

小林 歯止めのきかない人口減少に加え、コロナ禍の影響もあり、町財政も非常に厳しいとのことだが、基本設計の見直しはあるのか。

一部見直しが必要

町長 これまでの計画には、山形県から新た

に示された荒川水系・横川洪水浸水想定区域の考え方が反映されていないため、一部見直しが必要である。

資金計画は後年負担を
考えて

小林 小国町の冬を考慮した機能やメンテナンスの簡便さに配慮し、後年負担を考えた経済的な建設を望む。

国からは財政面でも自立性が求められる

町長 次期総合センターの主な整備財源は、国の地方創生拠点整備交付金の活用を考えている。町の自立性、官民協働、政策間連携などのほか、施設運営や維持管理を含め財政面でも自立性が求められ、採択要件の「地域再生計画」の策定を進めなければならない。

後年度負担を見定めた計画を策定する。

町民説明はどのように考えているのか

小林 地方分権改革時は、行政だけがまちづくりを進めた時代だった。これからは住民の参加、参画を得て、住民と協働して進める時代になると言われている。町民への説明はど

のように考えているのか。

各地区で説明会を実施

町長 取りまとめた土地利用計画の内容を、センターの利用団体、町中心部、沖庭、北部、南部、東部の各地区で丁寧な説明を行い、理解を得て実施設計準備調査に着手したい。



老朽化が進む総合センター

新・委員会構成決まる

このメンバーでがんばります!

総務厚生常任委員会

所管 総務課、総合政策課、町民税務課、健康福祉課、病院、訪問看護ステーション、老人保健施設、選挙管理委員会、監査委員、他の常任委員会の所管に属しない事項



◆委員長 安部 春美
◆副委員長 今 康成
◆委員 小林 嘉彦
渡邊 重信

議会運営委員会

所管 議会の運営に関する事項、議会の会議規則、委員会に関する条例等に関する事項、議長の諮問に関する事項等



◆委員長 遠藤 和彦
◆副委員長 安部 春美
◆委員 間宮 尚江
小林 和好
嘉

広聴広報常任委員会

所管 議会の広聴広報に関する事項



◆委員長 小関 和好
◆副委員長 伊藤 弘行
◆委員 渡邊 重信・柴田 伸也
間宮 尚江・小林 嘉

文教産建常任委員会

所管 産業振興課、地域整備課、教育委員会、農業委員会



◆委員長 間宮 尚江
◆副委員長 柴田 伸也
◆委員 高野 健人
小関 和好
伊藤 弘行

西置賜行政組合議会議員

渡邊 重信
伊藤 弘行
柴田 伸也

置賜広域行政事務組合議会議員

遠藤 和彦
小林 嘉
高野 健人

令和3年度

各常任委員会活動方針

総務厚生常任委員会

活動方針

地方自治を取り巻く環境は、人口減少、少子高齢社会の進展、社会保障制度の限界等ますます将来が見通せない状況となり、まちづくりに大きな影響を及ぼしている。

今、新たな時代のスタートにあたり、人口減少の抑制に向けた取り組みとともに、関係人口の拡大を目指すなど、町づくりにおける次代を展望した仕組みづくりが求められている。

当委員会はこのことを踏まえ、議会活動計画に基づいた各種活動に取り組む。

(1) 白い森の国を担う「人」づくり

- 移住定住促進事業
- 次期総合センター建設事業

(2) 白い森の魅力を磨く「環境」づくり

- 高齢者等暮らし応援事業
- ふるさとづくり総合助成事業
- コミュニティ助成事業
- 保育行政に関する取り組み
- 空白地運送支援事業

(3) 白い森を舞台とする

活き活きとした「暮らし」づくり

- 白い森みらい創生事業
- 地域包括ケアタウンについて
- (4) 新型コロナウイルス感染症防止対策
- 新型コロナウイルス感染症防止に
関する取り組み

文教産建常任委員会

活動方針

地方自治を取り巻く環境は、人口の減少、少子高齢社会の進展などによる過疎化の波が、まちづくりに大きな影響を及ぼしている。

このことから、人口減少の抑制に向けた取り組みとともに、町づくりにおける次代を展望した仕組みづくりが求められている。

当委員会はこのことを踏まえ、議会活動計画に基づいた各種活動に取り組む。

(1) 白い森の国を担う「人」づくり

- 保小中高一貫教育支援事業
- 地域との協働による高校改革推進事業
- 高校生の地域留学推進のための
高校魅力化支援事業
- 閉校校舎維持管理事業
- 歴史民俗資料館整備事業

(2) 白い森の魅力を磨く「環境」づくり

- 有害鳥獣被害対策事業
- 道路改良整備事業

(3) 白い森を舞台とする

活き活きとした「暮らし」づくり

- 道の駅機能拡充事業
- 多面的機能支払事業
- (4) 新型コロナウイルス感染症防止対策
- 新型コロナウイルス感染症防止対策事業
(経済対策) に関する取り組み

広聴広報

常任委員会

活動方針

町民に開かれた議会と町民参加の推進、町民の意見の的確な把握と実現に向けて、当委員会としては、議会活動計画に基づき、各種活動に取り組む。

(1) 高校生との意見交換会の開催

● 次年度意見交換会開催にかかる関係機関協議

(2) 議会議員と語る会の開催

● 2団体（サークル・企業等）

※コロナウィルス感染症の収束状況を鑑み時期を設定

(3) 議会だよりの発行

● 年4回（7月・10月・1月・4月）
● 広報作成への町民参加方法の検討・実施（モニター制導入）

令和3年度 小国町議会議員研修会



令和3年5月17日、山形県町村議会議長会 参与 武田 裕樹氏をお招きして「議員の発言と議会運営」議員の本質は発言」について講話をいただきました。

発言の自由性と責任、議会・議員としてのまとめ、賛否だけではなく一つになり町への発議、議論を尽くし住民への説明をする等の議会議員としての役割と使命を再確認しました。

活発な意見も出た研修会でした。

おらも おぐに町民

小国で 頑張ってます



プロフィール

名前(住所)

舟山康名さん

埼玉県志木市出身

(小国町大字小国町在住)

小国町職員を退職後

Kukka(クッカ)とい

う屋号で刺繍やハンドメ

イドの作品を販売してい

ます。

Q 小国町に嫁いできて
の印象と感想は？

A 初めて来たときは2
月の吹雪いている時で、
梅花皮荘の前に積もつ
た雪の高さに驚きました。
なまりが聞き取れず、
何を言われているのか
わからないときは、と
りあえず笑顔で頷いてい
ました。

今では埼玉の家族に
小国なまりだねと言わ
れます。(笑)

Q 小国のいいところは？

A 豊かな自然と共存し
生活している様子がか
っこいいと思います。冬
を乗り越えるたびに、
少し強くなれた気がする
ので、ここで生まれ育
った人は逞しいと思い
ます。

Q 仕事の内容は？

A ベビーアイテム、大人
服、アート作品、小物
等を9割以上インター
ネット注文を受け、
世界に1つの作品を制
作販売しています。

Q 今夢中になっている
ことは？

A 「つむぐ」の活動です。
様々な理由で小国町で
暮らすことになった人た
ちが、小国の暮らしを
楽しみ、もっと小国を
好きになって、更に良く
していくために活動し
ています。SDGsの取
り組みにも力を入れて
いるんですよ。

Q これからやってみた
ことは？

A 移住者の活動の幅を
広げたいです。個人で何
か始めたい人たちが協
力して、活動拠点を作り
たいです。子育て世代が
「小国にあつたらいいな
あ〜」と思うものを作り
たいです。

Q 小国の環境はどうで
すか？

(文責 柴田)

A 移住して5年が経ち
やっと前向きになれて
います。最初の数年は小
国の不便なところにし
か目を向けられませ
んでした。

Q 今後の目標は？

A (おそろく)県内初の
移住者コミュニティの
代表として、更に飛躍し
今の子供たちが、安心
して戻って来れる小国を
残すため、環境のこと、
SDGsにも力を入れ
て取組んでいきたいと
思います。

ありがとうございます。
「つむぐ」の今後
の活動に注目したいと
思います。

次は6月定例会です。傍聴にお誘いします。

議会に対してのご質問、ご意見をお寄せください。

議会事務局 (02)2448

編集 後記

風薫る緑豊かな季節とな
りました。

保存食として知られる笹
巻き。笹の葉は三角に巻く
のが主流ですが、最上地方
では円すい型、置賜地方で
はげんこつ型もあるようで
す。鶴岡市南部では、灰汁
水で煮る調理法で「ぶるん
」とした食感だそうです。最
近では家で作る方も少なく
なっています。

3世代同居率日本一の山
形県。コロナ禍で家で過ご
す時間を利用して、家族で
笹巻き作りをして、楽しん
でみてはいかがでしょうか。

柴田(記)

発行責任者

議長 高野 健人

広聴広報常任委員会

委員長 小関 和好

副委員長 伊藤 弘行

委員 渡邊 重信

柴田 伸也

間宮 尚江

小林 嘉